

## 教科に関する調査の設問別の分析結果

平成21年度「基礎・基本」定着状況調査 中学校英語 10-1

## 【「書くこと」についての設問】

設問 10

次の1・2はあなた自身のことについてたずねています。答えをIで始まる英文1文で書きなさい。

1 あなたは何時に起きますか。

I \_\_\_\_\_

2 あなたは昨日何をしましたか。

I \_\_\_\_\_

## 【出題の趣旨】

質問の答えとして適切な英文を書く。その際、自分のことについて内容を考えて英文を書く。

また、「起きる」「～時に」などの表現についての知識も必要である。

## 【学習指導要領の内容・領域】

2 内容 (1) 言語活動

エ 書くこと

(イ) 語と語のつながりなどに注意して正しく書くこと。

正答率 %	10-1	10-2
広島県	54.6	48.2
本校	42.9	50.0

10-1 解答類型			生徒の割合 (%)
1		get up (wake up) at six. など	35.7
2		類型1において、時刻を数字で書いている。	0.0
3		類型1において、時刻の数字の綴りに誤りがある。	7.1
4	×	類型1において、at がぬけている。	21.4
5	×	類型1において、動詞の綴りに誤りがある。	0.0
6	×	語順は正しいが、起きるという意味以外の動詞を書いている。	0.0
7	×	内容的にも文法的にも理解できない英文を書いている。	7.1
9	×	上記以外の解答	7.1
0		無回答	21.4

## この問題を解くために必要な力

正しい語順や語法を用いる力  
 一般動詞についての知識  
 前置詞を適切に使用する力  
 「get up」という表現を知っている

## 誤答分析

解答類型4について

- 前置詞の意味や使い方について、十分な知識が身に付いておらず、正しく使用できていない。

解答類型7, 9, 0について

- 基本的な英語の語順が定着していない。
- 単語を正しく書く力が不十分である。
- 自分のことについて、内容を考えて表現する力が十分に付いていない。

# 調査結果の分析をふまえた指導改善のポイント

平成21年度「基礎・基本」定着状況調査 中学校英語 10-1

## 【単元名】 NEW HORIZON English Course 3 Unit 4 An American Rakugo-ka

### 調査結果からみる課題

#### 【課題となる力】

- ・正しい語順や語法を用いる力
- ・内容を考えて表現する力
- ・前置詞についての知識

#### 【指導上の課題】

単語の綴りや基本表現の語順を十分に定着させていない。

学習した基本表現を正しく用いて、自分のことについて表現したり、相手に質問したりする力を十分に付けていない。

### 指導改善のポイント

内容を考えて、基本表現を正しく用いて表現する力を育成する。

#### 【指導の工夫】

基本語句や基本表現を定着させる指導を工夫する。

コミュニケーション活動を充実させ、表現を繰り返し使用させることを通して定着させていく。

### 基本語句や基本表現の定着

#### 授業での小テスト

単語の正しい綴りを定着させるために、授業の始めに単語の小テストを行い、生徒が目標を持って単語を練習できるようにする。

#### 身近な例文

新出表現を導入する際は、生徒にとって身近な例文を提示することにより、後の自己表現の手かかりとさせる。

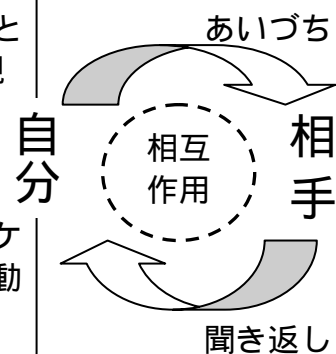
#### ドリル学習

語句や表現を定着させるために、ドリル学習を積極的に取り入れる。その際、学習形態や教具を工夫し、生徒が意欲的に取り組めるようにする。

### コミュニケーション活動の充実

《活動前》  
自分のことについて表現

コミュニケーション活動への準備



《活動後》  
活動を通して得た情報を英文で表現  
「話す」から「書く」へ

## 英語科学習指導案

学ぶ意欲を高め、思考力・判断力・表現力等を育成する指導方法・指導体制の在り方  
- 繰り返し学習の工夫とコミュニケーション活動の充実を通して -

日 時 平成21年9月18日(金) 第5校時(14:00~14:50)

学 年 第3学年A組 12名(男子6名 女子6名)

単 元 名 NEW HORIZON English Course 3  
Unit 4 America *Rakugo-ka*

### 単元について

本単元では、日本文化の事例として落語が取り上げられ、後半では英語落語の小話を読むこととなっている。この小話は、レストランでの注文という場面を取り上げ、日米の文化の違い、特に、よくある言語表現の間違いをテーマにしている。この小話を通して、英語と日本語の意味を1対1で対応させることの問題点や、言葉の多義性に気づかせることができると思われる。なお、登場する Bill Crowley 氏は実在の人物であり、この小話も彼の創作である。

言語材料としては、「疑問詞+不定詞」の文と「It is + 形容詞 + for... + to ~ .」の文が新出表現である。「疑問詞+不定詞」の文では、疑問詞が文頭ではなく文中に使われており、生徒にとっては初めて目にする文構造である。また、「It is + 形容詞 + for... + to ~ .」の文は、その語順を生徒が誤りやすい表現である。しかし、この文構造は、任意の形容詞や目的語を当てはめることにより、表現できる内容を広げることができ、大変便利な表現である。また、高校入試においても、並べ替え問題として出題される頻度が高く、その点からもこの文構造を確実に定着させる必要がある。

### 調査結果からみる課題

平成21年度「基礎・基本」定着状況調査の結果から、本校の生徒(現2年生)には、目的に応じて基本表現を正しく用いて表現する力に課題が見られた。特に「正しさ」という面においては、単語の綴り、動詞変化、前置詞の使い方等に誤りがあり、課題が多い。これは日々の授業での繰り返し学習の不足が原因の一つとして考えられる。また、学習した表現を用いて、“自分のことについて説明する”、“相手に質問する”等の運用力にも課題がある。英語を用いてのコミュニケーション活動の充実が必要である。

本学級の生徒は、授業に集中して取り組み、各学習活動を真面目に行っている。生徒間の仲も良く、ペアワーク等を楽しんで行うことができる。生徒たちの和やかな雰囲気と隣同士の教え合いにより、授業は一見スムーズに進んでいるように見える。しかし、個々の生徒に目を向けると、英語の読み書きや語順等の基本事項に課題をもつ生徒もいる。また、基礎的な力が概ね付いている生徒においても、自分自身のことについて内容を考えて書いたり話したりする活動になるとつまづくことがある。これらは、先に述べた現2年生と共通する課題であり、全学年を通しての授業改善の必要性を示している。

## 指導改善のポイント

本単元では、新出表現を学習する際に次の学習過程により活動を行うことにより、目的に応じて基本表現を正しく用いて、表現する力を育成する。

### 基本語句や基本表現の定着

#### 新出表現の文構造を理解する。【つかむ・教師による説明】

**身近な例文** 新出表現を導入する際は、生徒が意味を理解しやすいよう、既習表現と対比して提示したり、生徒にとって身近な例文を提示したりする。また、その例文を後の自己表現の手がかりとさせる。



#### 表現を繰り返し練習する。【つかむ】から【よむ・理解の確認】へ

**ドリル学習の工夫** 語句や表現を定着させるために、ドリル学習を積極的に取り入れる。その際、学習形態（ペア・グループ等）や教具（フラッシュカード、カルタ等）を工夫し、生徒が意欲的に取り組めるようにする。また、個々の生徒の理解の確認を行う。



### コミュニケーション活動の充実

#### 目的に応じて表現する。【できる・理解深化課題】

**自分のことについて** コミュニケーション活動を行う前に、基本表現を用いて自分のことについて表現させ、コミュニケーション活動への足がかりを準備させる。

**相手に質問する・メモをとる** 相手に質問することを通して、疑問文の定着を図る。また、相手の返答をメモさせることにより、目的意識を持ってコミュニケーション活動に取り組めるようにする。



#### 活動で得た情報を伝える。【できる・理解深化課題】

**「話す」から「書く」へ** コミュニケーション活動を通して得た情報を英文で書かせることにより、三人称単数の文や代名詞の使い方に慣れさせる。「話す」活動と「書く」活動を連動させることで表現力の育成を図るとともに、コミュニケーション活動への意欲を高める。

本校では、授業の中に「コミュニケーション活動」を設定している。授業者は、英語科における「言語活動」(コミュニケーション活動)を「基本表現を用いた、相手との相互作用のある言語による活動」と考え、実践している。

## 単元の目標

- 「疑問詞＋不定詞」の文の形・意味・用法を理解し、表現できる。
- 「It is＋形容詞＋for...＋to～」の文の形・意味・用法を理解し、表現できる。
- 英語で書かれた落語の小話を読み、内容を理解するとともに、「すみません」と「Excuse me.」「I'm sorry.」の違いを考えることを通して、日米の文化や言語表現の違いに気付くことができる。

### 6 単元の評価規準

	ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 表現の能力	ウ 理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
聞くこと			(適切な聞き取り) 聞いた内容について大切な部分を聞き取ることができる。	
話すこと	(言語活動への取組み) ペアワークやグループワークなどにおいて必要に応じて協力し合っている。	(正確な発話) 文法に従って正しく話すことができる。		
読むこと			(適切な読み取り) 書かれた情報について大切な部分を読み取ることができる。	(文化についての理解) 日米の文化や言語表現の違いについて理解している。
書くこと		(正確な筆記) 文法に従って正しく書くことができる。		(言語についての知識) 「疑問詞＋不定詞」の文の形・意味・用法を理解している。 「It is＋形容詞＋for...＋to～」の文の形・意味・用法を理解している。

## 指導と評価の計画 (全6時間) ...本時4 / 6

次	指導計画		評価					主な評価規準	評価方法
	学習の目標	学習内容	関心	表現	理解	知識			
第1次	「疑問詞＋不定詞」の文の形・意味・用法を理解し、表現できる。(2時間)	・「疑問詞＋不定詞」の文の形・意味・用法を理解する。 ・「疑問詞＋不定詞」の文が用いられた対話を聞いて、話されている内容を理解する。					【エ】 「疑問詞＋不定詞」の文の形・意味・用法を理解している。 【イ】 文法に従って「疑問詞＋不定詞」の文を正しく書いている。 【ウ】 聞いた内容に	ワークシート 評価問題	

						ついて大切な部分を聞き取ることができる。	
第2次	「It is + 形容詞 + for... + to ~ .」の文の形・意味・用法を理解し、表現できる。 (2時間・本時2/2)	・「It is + 形容詞 + for... + to ~ .」の文の形・意味・用法を理解する。 ・教科書の本文の内容を理解し、音読する。 <b>【つかむ・教師による説明】</b> <b>【よむ・理解確認課題】</b> ・「It is + 形容詞 + for... + to ~ .」の文を用いて、自分のことについて表現したり、相手に質問したりする。 <b>【できる・理解深化課題】</b>				【エ】 「It is + 形容詞 + for... + to ~ .」の文の形・意味・用法を理解している。 【ア】ペアワークやグループワークなどにおいて必要に応じて協力し合っている。 【イ】 文法に従って正しく話している。 【イ】 文法に従って、自分のことについて正しく書いている。	ワークシート 活動観察 評価問題
第3次	・英語で書かれた落語の小話を読み、「すみません」と「Excuse me.」「I'm sorry.」の違いを考えることを通して、日米の文化や言語表現の違いに気づくことができる。(2時間)	・小話の内容を理解する。 ・レストランでのトラブルの原因は何か考える。 ・日米の文化や言語表現にはどのような違いがあるか考える。				【ウ】 書かれた情報について大切な部分を読み取っている。 【エ】 日米の文化や言語表現の違いについて理解している。	ワークシート 自己評価

## 本時の学習

### (1) 本時の目標

「It is + 形容詞 + for... + to ~ .」の文を用いて自分のストレス解消法について書いたり、話したりして表現できる。

### (2) 本時の評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 表現の能力	ウ 理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
(言語活動への取組み) ペアワークやグループワークなどにおいて必要に応じて協力し合っている。	(正確な発話) 文法に従って正しく相手に質問している。 (正確な筆記) 文法に従って、自分のことについて正しく書いている。		

(3) 評価の尺度と評価規準におけるCと判断される生徒への働きかけ

B	規準を実現している。
Cと判断される生徒への働きかけ	基本文の語順を示したカードを見て、語順を確認しながら英作文させる。 評価A、Bと判断される生徒とペアを組ませ、ペア活動での教え合いを促す。

(4) 準備物

教科書、センテンスカード、語順カード、ワークシート、自己評価カード、辞書

(5) 学習活動の展開

学習活動		指導上の留意事項 ( T1 , T2 )・評価規準 ( )
Warm-up	(5分) 1 あいさつ 2 Q & A	<b>「受け答えをする技術」の活用</b> 単語だけで答えず、「主語+動詞」の形で答えさせる。
導入	(5分) <b>【つかむ】</b> 3 前時の学習を振り返る。 「It is + 形容詞 + for... + to ~ .」の文構造を確認する。  4 本時の目標を知る。 『「It is + 形容詞 + for... + to ~ .」の文を用いてストレス解消法を紹介しよう』	簡素にまとめ、本時の学習内容に入る、 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"><b>本時の基本表現：</b> 「It is + 形容詞 + for... + to ~ .」の文</div>
	(35分) <b>【よむ：理解確認課題】</b> 5 単語カードを並べ替えて先生たちのストレス解消法について「It is + 形容詞 + for... + to ~ .」の文を作る。	形容詞、目的語、不定詞の語順に留意させる。 【工】 「It is + 形容詞 + for... + to ~ .」の文の形・意味・用法を理解している。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"><b>発問：語順に気をつけて「It is + 形容詞 + for... + to ~ .」の文を作りなさい。</b></div>
展開	6 作った英文を発表する。	一人一人順に英文を言わせることで、テンポ良く確認する。 〔例〕 It is relaxing for Ms. Mizuoka to eat sweets. It is important for Mr. Oshita to run in the morning. It is fun for Ms. Nakamura to go shopping.

<p><b>【できる：理解深化課題】</b></p> <p>7 「It is + 形容詞 + for... + to ~ .」の文を用いて、自分のストレス解消法について英文を作る。</p>	
	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"><b>発問：「It is + 形容詞 + for... + to ~ .」の文を使って、自分のストレス解消法について英文を2文以上作りなさい。</b></p>
	<p>〔例〕 It's fun for me to play sports.  It's important for me to sleep a lot.  It's relaxing for me to listen to music.  語順に留意させる。  【イ】 文法に従って、自分のことについて正しく書いている。【ワークシート】</p>
<p>8 「It is + 形容詞 + for... + to ~ .」の文を用いて、ストレス解消法を友達と紹介し合う。</p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"><b>発問：あなたのストレス解消法を友達に紹介しましょう。</b></p>
<p>教師のデモンストレーションを聞く。</p> <p>9 活動の結果を確認する。  ( 教師の質問に答える )</p>	<p><b>《コミュニケーション活動》</b>  必ず相手に質問を一つ聞き返すようにさせる。</p> <p>〔例〕 T2: It's exciting for me to watch a soccer game.  T1: I see. Do you like Sanfrecce?  T2: Yes, I do.  T1: It's relaxing for me to drink coffee.  T2: I see. Do you drink coffee every day?  T1: Yes, I do.</p> <p>〔ペア〕 隣の人      班員      任意のペア  活動ができにくい生徒のペア活動を観察し、必要であればヒントを与えるなどの支援をする。(聞き返す質問は How about you? だけでも良い。)</p> <p>【ア】ペアワークやグループワークなどにおいて必要に応じて協力し合っている。  【イ】 「It is + 形容詞 + for... + to ~ .」の文法に従って正しく相手に質問している。【活動観察】</p> <p>〔例〕 T1: What's      's relaxation?  S1: It's fun for      to play <i>shogi</i>.</p>



まとめ	(5分) <b>【自己評価活動(メタ認知)】</b> 10 本時の評価をする。	「It is + 形容詞 + for... + to ~ .」の文を書かせる。(並べ替え)【評価問題】 授業で「よくわかったこと・できたこと」「よくわからなかったこと・できなかったこと」を書かせる。 <b>【自己評価】</b>
-----	---	---

(6) 板書計画

Friday, September 18

Unit 4 Dialog

「It is + 形容詞 + for... + to ~ .」の文を用いて, ストレス解消法を紹介しよう。

It is + 形容詞 + for (人) + to ~ = ~することは (人) にとって...だ

It is relaxing for Ms. Mizuoka to eat sweets.

It is important for Mr. Oshita to run in the morning.

It is fun for Ms. Nakamura to go shopping.

ピクチャーカード

ピクチャーカード

ピクチャーカード

聞き返し

How about you ~~?

あいづち

I see. / Yes. / Really?

Me, too.

つなぎ言葉

Well... / Let me see...

# 検 証

## 検証の方法

本時の目標が達成できているかどうかを評価するため、評価問題を作成し、実施した。この評価問題により、検証したい点は以下の2つである。

- (1) It for to 構文を用いることを判断し, it, for, to を補っているか。
- (2) It for to 構文の正しい語順が定着しているか。

### 【評価問題】(抜粋)

語群の単語を用いて、次の日本語を表す英文を書きなさい。ただし、語群に含まれていない単語を、必要に応じて補って英文を作ること。

トムにとってコンピュータを使うことは簡単だ。

語群： use / a computer / Tom / easy

## 検証結果

評価問題(全2問)の結果 [単位%]

	正答	誤答		
		It, for, to を補っていない	語順の誤り	無回答
問1	67	25	0	8
問2	67	25	0	8

## 分析・考察

本評価問題において正答であった生徒は、定期テストや実力テストにおいても、It for to 構文についての問題に正解しており、十分に定着している。本時の取組み(反復練習、コミュニケーション活動等)が有効であったと考えられる。